

## 施策評価（平成29年度）

政策コード	5	政策名	未来を担う教育・人づくり戦略		
施策コード	5	施策名	生涯学習を行動に結び付ける環境と芸術・文化に親しむ機会づくり		
幹事部局	教育庁		担当課	生涯学習課	
評価者	教育委員会		実施日	平成29年6月12日	

## 1 施策の目的等（政策との関連、必要性、取組内容、取組後の姿 など）

地域コミュニティを活性化する取組や魅力ある地域づくりへの住民参加を促進し、元気な秋田づくりにつなげていくため、生涯学習の成果を行動に結び付ける環境づくりや文化遺産等の保存・活用に取り組むほか、読書活動や芸術・文化体験活動を通じて豊かな情操を育むとともに、共感を通じて人と人とを結び付け、協働・共生する心、主体的に判断し適切に行動する力の育成を図る。

## 2 施策の状況

## (1) 代表指標の状況

●施策目標(評価指標)		基準値	年度	H25	H26	H27	H28	H29	直近の達成率	備考
		年度								
①	地域で活動する行動人(こうどうびと)の人数	16,332	目標		40,000	45,000	50,000	55,000	102.5%	H28確定値
		H24	実績	32,190	41,703	46,761	51,265			
	県・生涯学習課調べ	単位:人	達成率		104.3%	103.9%	102.5%			
②			目標							
			実績							
			達成率							

## (2) 代表指標の分析（推移の状況、実績・達成率の認識、全国順位等）

平成24年度から、県民総「行動人」推進事業の中で、「学んだことを行動に結び付け、社会に貢献しようとする『行動人』」の紹介人数を指標としている。平成27年度は累計45,000人、平成28年度は累計50,000人を目標としてきた。行動人が全県的に認知されつつあり、市町村からの情報提供も増えるなど紹介ルートも拡大し、目標達成につながった。平成30年度末に累計60,000人の紹介人数を達成するために、平成29年度以降も毎年度5,000人増を目標としている。

(3) 関連指標の状況

●施策目標(評価指標)		基準値	年度	H25	H26	H27	H28	H29	直近の達成率	備考
		年度								
①	課題支援公立図書館・公民館図書室の割合	27.1	目標		50.0	60.0	70.0	80.0	102.6%	H28確定値
	県・県立図書館調べ	H24	実績	38.6	67.1	75.7	71.8			
②	芸術・文化施設におけるセカンドスクールの利用者数	22,153	目標		23,500	24,000	24,500	25,000	104.0%	H28確定値
	県・生涯学習課調べ	単位:人	達成率		134.2%	126.2%	102.6%			
③	国・県指定等文化財の新規件数(累積)	4(720)	目標		4(738)	4(742)	4(746)	4(750)	325.0% (101.6)%	H28確定値
	県・生涯学習課文化財保護室調べ	H24	実績	9(729)	19(747)	5(748)	13(758)			
④			目標							
			実績							
			達成率							
⑤			目標							
			実績							
			達成率							
⑥			目標							
			実績							
			達成率							
⑦			目標							
			実績							
			達成率							

(4) 関連指標の分析(推移の状況、実績・達成率の認識、全国順位等)

①平成24年度から増加し、28年度も目標は達成したものの、課題解決支援に関するコーナーからテーマの変更を行った館があったため、実施図書館数が減となった。今後は各館の利用者ニーズを勘案しながら、引き続きコーナー設置を推奨する巡回指導に取り組んでいく。(53図書館→51図書館)

②芸術・文化施設におけるセカンドスクールの利用者数は、目標を上回った。平成27年度にスタートした「あきたの子ども文化体験促進事業」により、美術館を利用する学校が大幅に増加したことが一つの要因である。

③国、県指定等文化財の新規指定件数は、8年ぶりに国指定重要文化財(建造物)の指定があったほか、県指定を進めることにより着実に増加している。

## (5) 施策の推進状況（施策の方向性ごとに記載）

### ① 多様な学習機会の提供と学んだことを行動に結び付ける環境づくり

#### ●取組① 学習機会の充実とその成果の社会への還元

- ・「あきたスマートカレッジ」では、20種99回の各種教養講座に加え、県機関や他の文化施設との「連携講座」を実施し、若い世代が参加しやすい講座や行動人が講師を務める講座を開設した。
- ・「行動人」のネットワーク化を図るため、「行動人交流集会」を開催するとともに、行動人が自らの活動を県民に紹介する10の企画講座で延べ165回の講座を支援し、県民の気運の醸成に努めた。

#### ●取組② 読書活動の推進に向けた環境の整備

- ・民間との協働により、読書環境の充実と読書に親しむ機会の提供を行った。
- ・「打って出る図書館」として、県立図書館の司書が全ての市町村立図書館等を訪問し、個々の課題に応じた情報提供や助言を行ったほか、資料提供により運営を支援した。
- ・県立図書館による市町村立図書館等の職員等を対象とした研修メニューの見直しと体系的な整備を行い、図書館関係者の人材育成と資質向上に努めた。

### ② 芸術・文化体験活動の推進と文化遺産等の保存・活用

#### ●取組① 豊かな心や感性、創造性を育む芸術・文化体験活動の推進

- ・幅広い世代を対象とする美術館教室や博物館教室を開催し、多くの県民が参加した。
- ・「秋田県青少年劇場」や「文化芸術による子供の育成事業」など、児童・生徒が音楽や演劇などの優れた芸術・文化に触れる機会を提供した。

#### ●取組② 有形文化財や民俗文化財、記念物など文化遺産等の保存・活用

- ・文化遺産等の保存・活用は、重要文化財天徳寺や県指定有形文化財等の修理に助成するなど、着実に進められている。
- ・大館市で開催された「新・秋田の行事inおおだて2016」に合わせて開催した秋田県民俗芸能大会では、6団体が公演した。また、3小学校を会場に後継者育成を目的とした民俗文化財公開交流事業を行った。
- ・「あきたの縄文遺産パスポート」及びキッズ版によるシールラリーを行うなど、「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界遺産登録に向けた取組をPRし、登録への気運醸成に努めた。
- ・文化遺産等の価値を再認識し、地域の活性化につなげるため、あきたの文化遺産魅力発信事業により、日本遺産認定取得に取り組んだ。

### 3 評価

総合評価	A
評価理由	県民へ多様な学習の機会を提供するとともに、行動人の活動支援を行うなど、学習の成果を還元するような取組への支援により、代表指標は目標を達成している。関連指標については、「あきたの子ども文化体験促進事業」により、多くの子どもたちが芸術・文化に触れる機会を提供したことにより概ね目標を達成している。また、全市町村で子ども読書活動推進計画の策定が完了するなど、重点的に実施してきた市町村支援の成果が表れている。 さらに、文化財の指定・保存、民俗芸能の後継者の育成につなげる交流事業などに加え、「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界遺産登録を目指す気運を醸成する取組を行うなど、文化遺産等の保存・活用は着実に進められている。 以上のことから、本施策の総合評価は「A」とする。

※総合評価の判定基準

「A」：目標を達成 「B」：目標を8割以上達成 「C」：目標達成が6割以上8割未満 「D」：目標達成が6割未満

### 4 課題と今後の対応方針

#### ① 課題（施策目標達成に向けた新たな課題、環境変化等により生じた課題 など）

- ・「行動人」を社会教育機関・関係者を越えた広い範囲へ浸透を図ること、「行動人」の活動を地域コミュニティ活性化や地域づくりに結び付けることが課題である。
- ・県内の児童・生徒数の減少により、芸術・文化施設におけるセカンドスクールの利用者数への影響が予想される。
- ・無形民俗文化財の伝承は、少子高齢化の影響を受け、厳しい現状にあり、後継者の育成に取り組む必要がある。
- ・「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界遺産登録に向けて、県民の気運を高める取組が求められている。
- ・日本遺産認定を取得し、それらを地域の活性化につなげる取組が求められている。

#### ② 今後の対応方針（重点的・優先的に取り組むべきこと）

- ・「行動人」をウェブ上で紹介し、加えて地域づくりの観点から、更なるネットワーク化とその活動をきめ細かく支援していく。また、若い世代の「行動人」を育成し、若い世代が地域づくりに参画する機会を提供していく。
- ・「秋田の子ども文化体験促進事業」により、ふるさと秋田への理解と愛着を深める活動を促進するとともに、セカンドスクールの利用の促進を更に図るために、各学校への周知・広報活動等に力を入れていく。
- ・無形民俗文化財の後継者育成を目的として、小学校を会場に異世代交流を活性化させる民俗文化財公開交流事業を継続する。
- ・「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界遺産登録に係る課題の解決に取り組むとともに、世界遺産登録に向けた県民の気運醸成を図る事業を拡充する。
- ・文化財の活用により地域活性化につながるよう、日本遺産認定取得に向けた取組を継続する。
- ・県民が文化遺産について最新の正確な情報を持つことができるよう、様々な文化財関係の情報を資料化するとともに、県民ニーズに対応した文化財の公開と積極的な活用機会づくり等に取り組んでいく。
- ・郷土の文化資産の適切な評価や継承が着実にできるよう、文化財の指定及び保存と活用に関する事業を更に推進していく。

### 5 政策評価委員会の意見

--